

(1面より続く)

はまったく同じではないでしょうか。

多喜二の母セキさんの「もう一度立たねか、みんなのためにもう一度立たねか」は、実は、今を生きる私たちにこそ、「今、立たねか」と訴えているのだとあらためて思いました。

本日は多喜二のゆかりのある七沢、この伊勢原にお出でくださり、ありがとうございます。地元を代表して、お礼申し上げます。

感想

一部分です。
4月号に続きます。

○りっぱな多喜二祭でした。特に島村輝さんの講演は楽しく聞くことが出来ました。又次回参加したいと思えます。

(講演) ウィットに富んだお話し、多喜二の今まで知らなかった分を紹介していただき面白かったです。

(朗読) 護柔さんの力強い語り口よかったです。(秦野市)

○神奈川七沢多喜二祭が20回目をむかえられたことを、お祝い申し上げます。特に多喜二ゆか



デュオ・オブリガートの演奏

りの福元館との協力関係を維持され、多喜二の宿として全国に広めながら多喜二祭を継続してこられた幡崎事務局長と実行委員のみなさんに敬意をひょうじます。ひさしぶりに参加させていただきます。集まりもよいことに嬉しくおもいました。

(講演) とても聴きやすい講演でした。多喜二の描いた女性像を、当時の若いプロレタリア文学の愛情の問題への関心を背景に、「工場細胞」に描かれた男女を生き生きと感ぜさせていただきました。多喜二の“大衆化路線”というよりは、闘いと個人の葛藤を真剣にえがいていたことに気付かせてもらいました。(朗読) よい朗読だったと思

ますが、広い会場にマイクを使わず朗読されたのはどうだったのでしょうか。ほとんどききとれませんでした。

(スライド上映) 神奈川七沢多喜二祭の歴史が関連する事柄と共に語られ、改めて20回の実りを理解しました。解説が早口になりました。省略するところを削り、感情がこもるともつと良かったと思います。(澤田章子) ○バリエーションに富んでいて

伊勢原多喜二祭に参加して

参加して

湘南支部 江藤みさお

前回、コロナ前に行った多喜二祭が1回目の参加で今回で2回目ですが、なんと実行委員での参加となりました。

実行委員会会議も途中からの参加でほんの数回しか参加出来ず、あつという間に本番を迎えました。

催し物も好評を得て、足を運んでくださった参加者も多数のアンケートを寄せて下さり、客席と実行委員会の一体

良かった。特に講演の内容がおもしろかった。

(講演) 多喜二文学の奥深さ、小説としてのおもしろさがわかった。戦前の社会、労働運動の生々しさ、読みたい気持ち大きくなった。

(音楽) 生の演奏は身体にひびきます。

(朗読) 良かった。(スライド上映) 活動の歴史が良く分かった。(海老名市)

になり、作り上げた多喜二祭になったと思います。

統一地方選挙の直前のお忙しい時にも関わらず、ご来場くださった方々に感謝申し上げます。

それでも、反省点は多々あり、次回はその反省点を踏まえた、多喜二祭にして行きたいです。

伊勢原多喜二祭の存続は神奈川県民の課題として深く捉え、微力ではありますが関わって行けたらと思っています。

「増本一彦さんを偲ぶ、新たな出発のつどい」

2月11日神商連会館にて、増本一彦さんの偲ぶ会が開かれました。

国賠同盟からは、中央本部田中事務局長、県本部の岡村会長代行が挨拶をしました。冊子「増本一彦氏を偲ぶ」（廉価500円）が発行されました。



「増本一彦さんを偲び、新たな出発の集い」に参加して

川崎支部 渡邊 陸男

国賠同盟・年金者組合・革新懇の代表者が65名集まり、川崎支部からは3人が出席しました。

各分野から追悼の発言が有りましたが、どなたからも生前の増本一彦さんからの指導・激励・援助で今の自分があり、共に闘って来て良かった、更に増本さんの意思を継いで頑張ると訴えておられました。私が、増本一彦さんの名前を知ったのは1976年の衆議院選で日本共産党が神奈川県で3名当選した時からです。国会で鋭い追求をすることから田中角栄が

最も畏れた議員として活躍する姿を見ていました。その後、亡き植田泰治（川崎支部長）さんに誘われ、国賠同盟に加入してからは、お会いする機会が多くなりました。治安維持法国賠同盟の神奈川県会長として、その後の中央本部会長として、本当にバイタリティーのある方だと感じました。同時に細やかな愛情を持つた方でした。

国賠同盟川崎支部の独自企画として、衆議院議員選挙に斉藤のどかさんが神奈川県9区から立候補した時、「増本一彦さんとの激励トーク会」を企画しました。その時の増本さんの発言で、強く印象に残っている一言があります。

それは「候補者はどんな場合でも、聴衆に良い印象を与えられる原稿を用意すること。そこにいる人が何に困ってどんな要求を持っているか事前に調べてそれに答えられる演説を準備して臨むこと。3分用、10分用、20分用と」でした。さすが激戦区を勝ち抜いた増本さんと思っただ次第でした。

国賠同盟も高齢化が進み、治安維持法犠牲者も少なくなり、組織維持・拡大が求められる今、増本さんの意思をつぎ張って行かなければとあらためて感じました。

第41回神奈川県解放戦士顕彰会 式典のご案内

日時 5月21日(日) 11時開会
場所 神奈川県解放戦士の碑 前

*京急長沢駅北口から徒歩10分
*駅から送迎バスにご乗車いただけます。

*主な次第

故人顕彰、追悼の辞、故人との思い出交流、献花 他

参加申込方法：後日お送りする
往復はがきでご返信ください。
神奈川県いしづえ会

【遺稿】

前県本部会長 故宗形孝至さんの

「増本一彦さんを偲ぶ」追悼文

2・11「増本一彦さんをしのぶ、新たな出発のつどい」で発刊された冊子「増本一彦氏を偲ぶ」で県本部前会長の宗形孝至さんの追悼文が掲載されています。発行の神奈川革新懇の了解を得て、「不届」3月号に転載します。

治安維持法犠牲者国家賠償要求同盟中央本部会長の増本氏が急逝されました。

1989年より神奈川県の

会長として26年間その重責を担い、2015年から中央本部会長として活躍されました。

平和と社会進歩のために、命がけで闘った戦前の意治安維持法犠牲者の名誉回復と憲章のため「2020年代を同盟運動の転換期とする時代認識に立って、全国2万名の同盟建設を目標に」「国による謝罪と賠償を実現する法制化」を実現するために全国を飛び回り、全精力を傾けて奮闘されてきました。

今年6月に予定される40回大会で、高齢と健康悪化から退任を表明していましたが本当に残念です。

戦前、首都東京に隣接、横須賀や相模原に基地を抱え、京浜重化学工業地帯として全国から労働者が集まり、労働運動が活発化し、港湾労働者や富士紡の労働争議や、民主運動や文化運動が活発化しましたが「国体護持」や「私有財産制」を否定する国体変革の思想は治安維持法により、特高警察のもとで、逮捕、拷問、虐殺など徹底的に弾圧されました。

維持法犠牲者は解放され、国民主権の平和憲法が施行されましたが、犠牲者への謝罪や賠償はされず、現在に至っています。

増本会長のもとで、神奈川の治安維持法犠牲者の闘いと抵抗の歴史は、「神奈川の治安維持法犠牲者―その即席と名簿―」夜明けをめざして「続・同」の3部作（富谷信夫編）として出版し記録されています。

歴史逆行を許さず、全国の犠牲者の史実発掘を進め、横浜事件や小林多喜二祭などで語り継いできましたが、日本国憲法の平和と民主主義の礎を築いた、先輩たちの貴重な闘いと抵抗の歴史を風化しないように、顕彰と名誉回復を実現するために、その役割を引き継いでいかなければなりません。

最後に、私は1965年、東芝と米国のGE社の合弁会社・芝浦共同KK（その後石川島播磨に吸収合併）で思想

差別による配転と不当労働行為による解雇を許さない裁判として、他の2名の仲間とともに、横浜合同法律事務所が増本氏をはじめ川又、畑山弁護士とともに、13年間闘い和解となりました。改めて、その弁護士活動への感謝とお礼の言葉を送るとともに、心から哀悼の意を表します。

治安維持法犠牲者国家賠償要求同盟神奈川県本部

会長 宗形 孝至



【同盟県本部日程】

県本部常任理事会

3月22日(水)

午後1時30分